

## 「仕事の仕組み」を理解してスキルアップを目指す！

### 日本タイムマネジメント普及協会が提唱する

# 「仕事の管理型」の 業務スタイル

日本タイムマネジメント普及協会 理事  
行本明説

ここでは、NPO法人日本タイムマネジメント普及協会が提唱する「仕事の管理型」のタイムマネジメントを取り上げ、「仕事の仕組み」の分析によるスキルアップの方法を解説する。



## 情

報化社会の進展に伴い、仕事の現場では自律性の欠如や働き甲斐の喪失など様々な問題が生じている。一方で、仕事のグローバル化は今までにない数値目標の強化につながっている。それらが重なり合って、従来では考えられなかったようなトラブルやミスが、個人だけでなく組織全体でも生じるような時代になってきているのだ。

そこで本稿では、これらの問題を解決する方法として、一人ひとりの業務スキルに着目し、「仕事の管理」を行うための方法をお伝えしていきたい。

### 「時間管理型」の業務では スキルアップできない

#### タイムマネジメントとは

そもそも、「タイムマネジメント」という言葉は英語である。そのため、本来の意味を取り違えてしまっている人が多い。日本語に訳すと「時間管理」となってしまうが、この世の中に「時間を管理・コントロール」できる人はた

だの一人もいないはずだ。時間管理をしているように見える実態は、その時間の中で行う行動の管理のことである。それは仕事の現場では「仕事の管理」ということになる。

突然だが、ここで自身のいつもの仕事の仕方を考えてほしい。「時から 時まで」の仕事をしてしよう」と、時間に仕事を貼り付けて段取りを行っている人は、「時間管理型」の業務スタイルである。実は、このスタイルでスキルアップを望んでも、大抵はうまくいかない。

一方、「の仕事は 時から 時まで行おう」と、仕事に時間を貼り付けて段取りを行っている人は、「仕事の管理型」の業務スタイルである。こうした人は、比較的容易にスキルアップできる。

この二つは、外から見ると区別はつかず、やっている本人にしか分からない。ホワイトカラーの生産性向上の取組みが難しいのも、個人の業務スタイルは「外見から区別がつかないこと」が大きな原因の一つなのである。

タイムマネジメントは、時間管理ではなく「仕事の管理」と理解し、本論を読み進めていただきたい。これまで「時間管理型」だった人は、最初のステップとして「仕事を明確にして、その仕事を何時からやるか」を決めるだけでタイムマネジメントが上達するはずだ。

つまり、タイムマネジメントを上手に行うには「仕事の管理」を実践することが重要となる。それには「仕事の仕組み」に精通することが条件となる。

### 「真似る」のではなく 「考える」ことが重要

マネジメントの現場では「スキルアップ」という言葉もよく使われるが、これも英語なので曲者だ。捉え方を間違えると取組みを誤る危険性がある。

「スキルアップ」とは、「今までできなかったことができるようになること」である。昨日できなかったことが今日はできるようになる、明日にはもっと上手にできるようになる、ということだ。



スキルアップのためのアプローチの仕方は、大きく分けて以下の二つが考えられる。

- ①人のやっていることを真似る
- ②「仕組み」を理解し、自分でやり方を考える

企業研修などでは、基本的に前者のアプローチが実施されている。この方法は、小学生くらいまでは通用するかもしれないが、自我が確立した大人がやると、大概の場合、長続きせず失敗してしまう。そのため、企業研修がなかなか成果につながらないという問題

が起きているのではないだろうか。

例えば、小学生くらいまでは友人や先生、またはテレビの登場人物の話し方を真似てコミュニケーションスキルを向上させることがあるが、自身のまわりでそのような社会人を見たことがあるだろうか。おそらく、いないと思われる。なぜなら、各自が自律した自我を持っているからだ。

スキルアップは、「昨日よりも今日」とするために現状の把握が不可欠である。そして「真似る」のではなく、「考える」ことが必要だ。その意味でも、考えるための羅針盤として「仕事の仕組み」に精通することが、スキルアップのためには不可欠だといえる。

### 5W1Hで 仕事を考えてみよう

#### 仕事の仕組みとは

それでは、その「仕事の仕組み」とはどんなものなのか。それを理解する力ギとなるのが、以下の等式である。

「社長の仕事＝自分の仕事」

「企画書作成＝コピー取り」

この二つの等式は、通常は受け入れられない等式である。だが、これを理解することから、仕事の仕組みへの理解が始まるのだ。では、「社長の仕事＝自分の仕事」という等式が成り立つことを証明していきたい。そのために「5W1H」で私たちの仕事を考えてみよう。

#### ① Who (誰が)

まず、誰がやるかを考えると、「自分一人」と、誰かと一緒(他人と共同)にやるという二つしかない。

#### ② What (何を)

次に、何をやるかを考えると、「事前に分かる」仕事と、「突発的に発生する」仕事のやはり二つしかない。

#### ③ How (どのように)

どうやるかを考えると、「継続的」にやると「企画・単発的」にやるの二つしかない。

#### ④ Why (なぜ)

なぜやるかを考えると、「売上確保(パフォーマンス)」と「組